

# 会務報告

## ◇ 委員会報告 ◇

### ● 大会委員会

◆2012年1月29日(日)、東方学会本館2階会議室において、2011年度第5回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

#### 1. 2011年度秋季大会の反省について

アンケート結果を参考に、秋季大会について改善点を探った。発表形態それぞれについて評価が高かったものについて確認を行うとともに、大会運営上改善すべき点などが指摘された。今後発表形態WGで更なる検討をすることになった。教材紹介コーナーについては概ね好評であったことが報告された。

今大会では、大会前日から2日間に渡ってワークショップが開催された。アンケート結果(延べ参加者数38名)及び担当委員による評価を踏まえて、今後の継続可能性や改善点などを探った。参加者の評価は高く、問題点を改善して、今後の継続実施に向けて検討することとなった。

#### 2. 2012年度春季大会(拓殖大学)準備の進捗状況について

大会開催準備の進捗状況を確認した。使用教室、当日のタイムスケジュール、参加者アンケートの新様式等が確認された。また教材・書籍紹介コーナーについては、スペースその他の事情があるため春季大会では行わないことにしたが、改善点などを解決すべく秋季大会に向けて検討することになった。

#### 3. 2012年度春季大会における学会創立50周年記念パネルセッションについて

資料に基づき事務局より検討事項の説明があり審議が行われた。記念パネルと公募パネル1件を平行させることにし、技術的、予算的に可能な場合は、開会式及び記念パネルを本会場とサブ会場(映像・音声配信)の2会場とすることにした(その後の検討・調整の結果、映像・音声配信の準備を依頼することになった)。

記念パネルについて、大会委員会としては、企画内容を踏まえてできればディスカッサントを加えることを提案することとした。また、要望のあったU-stream配信は諸般の事情を勘案して行わず、50周年記念の記録としての録画依頼があった場合は認めることとした(この録画の大会後の扱いについては常任理事会、理事会に委ねることとした)。

#### 4. 2012年度春季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表28件、ポスター発表11件、パネ

ルディスカッション4件、デモンストレーション4件を採用した。審査後、不採用者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。また、選考基準の細部について、今後さらに検討することになった。

#### 5. 2012年度秋季大会以降の企画・運営について

2012年度秋季大会及び2013年度春季大会・秋季大会の会場校について資料に基づき委員長から報告があった。また、2014年度秋季大会以降の会場校については、コンベンションセンター等の利用も含めて会場候補の情報提供等について委員長から委員に協力の依頼があった。

また、2013年度秋季大会では大会委員会企画パネルを検討することになった。

#### 6. 発表形態検討WGの議論の進捗状況について(第4回中間報告)

資料に基づき庵委員から報告があった。発表形態それぞれについての検討状況が報告され、今後さらにデモンストレーションに関する規程の検討を続けることになった。

#### 7. 今後の委員会日程について

次回の委員会は、2012年5月27日(日)に春季大会会場において行う。

(砂川 裕一)

### ● 学会誌委員会

3月3日(土)午後2時~5時30分、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

151号・153号の刊行準備進捗状況を報告した後、第7回林大記念論文賞の選考結果について承認を得た。その後、以下について審議した。

#### 1. 152号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼5件の決定。

#### 2. 152号投稿論文(投稿総数44本(研究論文22, 調査報告8, 実践報告10, 研究ノート4))の審査。

#### 3. 155号特集の構成及び告知文案についての検討。

#### 4. Eメールによる投稿の受付についての審議・検討。

#### 5. 新カテゴリーの設定についての検討

#### 6. とりまとめ方法の改定についての検討。

次回委員会予定: 2012年7月14日(土)

(山内 博之)

### ● 研究集会委員会

#### ◆ 研究集会実施報告

##### 1. 2011年度第8回研究集会(四国地区)

日時: 2011年11月19日(土) 12:20~17:20

会場: 香川大学教育学部8号館

参加人数：66名（会員22名，一般44名）  
内容：講演，研究発表（口頭10件，ポスター1件）  
講演講師：御館久理恵氏（鳥取大学）・新庄あいみ氏（大阪大学）

題目：「社会参加を目指した地域日本語活動—日本語ボランティアに大切な3つの「基礎力」と，生活者のための漢字学習の重要性について—」

講演では，御館氏により，日本語ボランティアが実際に活動するにあたって必要となる三つの基礎力（場作り力，コミュニケーション力，活動想像力）の必要性について，具体例を示しながら説明が行われ，また，新庄氏により，地域の日本語教室だからこその，日常生活で必要とされる漢字学習について，具体的な事例の紹介とともにその重要性が示された。

講演後，研究発表（2会場）とポスター発表（1会場）が行われた。第1会場では，地域の日本語教室に関する発表（前半）およびアジア地域の学習者に関する発表が，第2会場では，大学，高専，日本語学校等における日本語教育に関する発表が，第3会場では日本語ボランティアに関するポスター発表が行われた。いずれの会場においても，発表内容にもとづいて活発な討議が行われた。

（報告者：轟木 靖子）

## 2. 2011年度第9回研究集会（東北地区）

日時：2011年11月19日（土）10:00～17:30

会場：秋田大学手形キャンパス一般教育1号館

後援：秋田大学国際交流センター

参加人数：61名（会員31名，一般26名，不明4名）

内容：講演，研究発表11件

ワークショップ講師：細川英雄氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科）

題目：「より豊かなことばの活動をめざして—総合活動型日本語教育の考え方と方法—」

発表件数は，報告者が地区委員になった2009年以降でもっとも多い11件で，午前・午後と二会場に分かれて研究発表会が行われた。開催地・秋田での教育実践に関する研究，インタビューやフィールドノーツに基いた実践研究，音声指導・習得研究，新語の意味変化と日本語教育での扱い方の研究，Can-do-statements項目の妥当性の研究など，アプローチや対象は異なるものの，いずれも日本語教育と日本語教育学の発展に寄与することをめざした研究発表だった。

夕方には，細川英雄氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科）による，「より豊かなことばの活動をめざして—総合活動型日本語教育の考え方と方法—」についてワークショップが開催された。冒頭で視聴した総合活動型日本語教育のビデオは，参加者にとって非常に刺激的だったようで，その後のグループディスカッション・質疑応答は賛否両論入りまじる熱気あふれるものとなった。ワークショップで示されたことばの活動は，教育観が各

自の実践と実践を取り囲む環境を変えていくという例であり，今後，東北地区での教育実践も変化していくのかもしれない。

（報告者：牲川 波都季）

## 3. 2011年度第10回研究集会（中国地区）

日時：2011年12月17日（土）10:00～17:00

会場：広島YMCA 本館4階

参加人数：153名（会員51名，一般102名）

内容：シンポジウム，講演，研究発表（口頭8件，ポスター7件）

シンポジウムパネリスト：二口とみゑ（HOPE(Hiroshima Overplaces People's Education)プロジェクト），間瀬伊久（財団法人東広島市教育文化振興事業団）

題目：「地域の日本語教育を考える」

講演講師：池上摩希子（早稲田大学）

題目：「広島事例から考える日本語教育の在り方—「地域」の日本語教育，「地域」と日本語教育—」

地域の日本語教育をテーマとしたシンポジウムでは，これまで広島で取り組んできた「子どもたちとのさまざまな日本語学習」と「外国籍市民をサポートするシステムと市民ボランティアの役割」が報告され，これからの課題とその具体的な解決策が提案された。講演では，シンポジウムで示された課題をふまえ，広島以外の地域の事例や課題が紹介され，養成を含む「人材」および連携と協働を創出できる「学びの場=地域」とシステムの必要性が訴えられた。ポスター発表と口頭発表では，幅広いテーマについて熱心な発表と活発な議論が行われ，その様子が中国新聞に取り上げられた。参加者からは今後の教育・支援・研究に非常に役立ったという意見だけでなく，研究集会での出会いによってお互いに励ましあえたとの声が寄せられた。

（報告者：渡部 倫子）

## ◆2012年度の研究集会予定

### 1. 第1回研究集会（中部地区）

2012年6月2日（土），金城学院大学

### 2. 第2回研究集会（九州地区）

2012年6月16日（土）～17日（日），熊本学園大学

### 3. 第3回研究集会（北陸地区）

2012年6月23日（土），富山大学

### 4. 第4回研究集会（北海道地区）

2012年7月1日（日），北海道大学

### 5. 第5回研究集会（関東地区）「実践研究フォーラム」

2012年7月28日（土）～29日（日），

早稲田大学早稲田キャンパス

### 6. 第6回研究集会（四国地区）

2012年8月4日（土），明德義塾高等学校

### 7. 第7回研究集会（関西地区）

2012年9月1日（土），日本学生支援機構大阪

日本語教育センター

8. 第8回研究会（東北地区）

2012年11月予定，弘前大学

9. 第9回研究会（中国地区）

2012年12月15日（土）予定，山口大学

10. 第10回研究会（関西地区）

2013年3月2日（土），甲南大学

※各地区研究会のプログラム，発表要旨，発表募集情報等は，日本語教育学会ウェブサイトの研究会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

#### ◆ 会議記録

1. 研究会関東地区委員会

（実践研究フォーラム実行委員会）

- ・ 2011年度第6回研究会関東地区委員会  
（2011年12月13日）

- (1) WEB版実践研究フォーラムの最終原稿確認
- (2) 2012年度実践研究フォーラムについて

2. 次回委員会日程

- ・ 2011年度第7回研究会関東地区委員会  
（実践研究フォーラム実行委員会）  
2012年3月27日（火），東方学会会議室
- ・ 2012年度第1回研究会全体委員会  
2012年5月27日（日），拓殖大学（春季大会会場）

#### ● 教師研修委員会

##### ◆ 研修実施報告

1. カリキュラム評価を活かした教育実践

— 学習者の学びを評価に取り入れる—

講師：田中統治氏（筑波大学）

コーディネーター：古川嘉子，岡本能里子（教師研修委員）

開催日：2012年1月28日（土）10：00-17：00

会場：政策研究大学院大学

参加者：20名

2. 専門日本語教育ワークショップ「仕事の日本語」

～ビジネス日本語・介護日本語～

講師：春原憲一郎氏（AOTS），篠原紀絵氏（AOTS），品田潤子氏（AJALT）

コーディネーター：神吉宇一，近藤彩（教師研修委員）

開催日：2012年3月3日（土）10：00-17：00

会場：政策研究大学院大学

参加者：52名

3. 日本語教師のためのOn-Line IT講座

講師：中澤一亮氏（台湾・元智大学）

アシスタント：伊東克洋（米国・パデュー大学）

監修：畑佐一味氏（米国・パデュー大学）

コーディネーター：根津誠（教師研修委員）

開催日：2012年1月30日（月）～3月23日（金）

参加者：14名

##### ◆ 2012年度の研修予定

1. ソーシャルメディアを利用した日本語学習環境

開催日：2012年5月19日（土），定員20名，神戸大学

2. 日本語教師のためのコーパス分析

開催日：2012年6月30日（土），定員30名，東京

3. 質的研究法

開催日：2012年9月，定員60名，東京

4. 日本語教師が知っておきたい「地域コーディネーター」

開催日：2012年11月，定員60名，東京

5. 他学会連携研修（ヒューマンライブラリー）

開催日：2012年12月，定員60名，東京

6. 日本語教師が知っておきたい「アーティキュレーション」

開催時期未定，定員60名，東京

7. 教室活動のデザインV

開催日：2013年2月，定員40名，東京

8. 日本語教師のためのOn-Line IT講座

開催日：2013年1月～3月，定員10名

※上記はいずれも予定のため，タイトル・日時・会場等が変更する場合もございます。研修参加者の募集詳細は決定次第，日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

##### ◆ 会議記録

1. 2011年度第4回教師研修委員会（12月1日）

- (1) 2011年度夏季集中研修の報告と反省
- (2) 2011年度後半の研修実施予定および進捗状況
- (3) 2012年度の研修計画
- (4) 今後の会議日程確認

2. 2011年度第5回教師研修委員会（1月21日）

- (1) 2011年度後半研修の進捗状況
- (2) 2012年度の各研修企画
- (3) 2012年度の委員会会議日程について
- (4) 教師研修委員会の対外アピールについて

3. 2012年度の委員会予定

第1回教師研修委員会（2012年4月7日）

第2回教師研修委員会（2012年6月16日）

第3回教師研修委員会（2012年9月8日）

（古川 嘉子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2012(平成24)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払(海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください)。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年会費>

- 普通会員 10,000円(年額)
- 賛助会員 一口50,000円以上(年額)

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp